

1. 当日の流れ

(ア) 予行演習

- ① 第1日程にて実施済みのため、第2日程では予行演習を行いません

(イ) 競技

- ① 競技スケジュール表を参照

2. 必要な人員

(ア) カメラマン 1名/競技団体

- ① 複数チームが出場する競技団体においても、カメラマンは全チームの競技を通して1名であることが望ましい。
② チームメンバーでなくてよい
③ 撮影だけでなく、ホストと競技者の間の連絡役も担う

(イ) 競技者 1名以上/チーム

- ① 競技者は、必ずチームメンバーであること

(ウ) メジャー係 2名ほど/チーム

- ① 複数チームが出場する競技団体において、メジャー係は全チームを通して共通であることが望ましい。チームごとに異なる場合は、予行演習において全員が一度に参加してレクチャーを受けること
② チームメンバーでなくてよい。競技者と兼ねてもよい

3. 用意するもの(予行演習、競技ともに)

(ア) カメラ付き携帯端末(スマホなど)

- ① 充電を忘れずに
② できればイヤホンも

(イ) Zoomの接続環境(Zoomミーティングアドレスは代表者にメールで送付)

(ウ) メジャー/巻尺(4m以上)

(エ) 競技コース

(オ) コースのまわりを歩き回るスペース

4. 競技会場

(ア) 別紙の典型的な競技会場の例を参考のこと

(イ) 特にZoomの音声はハウリングなどしないように注意する

5. 「競技」の方法(参加チームごと)

(ア) カメラマンのみ Zoomのビデオon, ミュートoffにする

(イ) 競技前確認

- ① 司会進行が競技チーム名などをコールしたら開始
② メジャー係が、コース、スタートエリア、ゴールエリア、ピース置き場、台紙エリアの幅と長さの2辺に順にメジャーをあて、カメラマンはそれぞれのメジャーの両端を順に大きく写し出して、審判と記録に伝える
③ カメラマンはコース全体をゆっくり映して、エリアの配置位置が規定通りであることを、審判と記録に伝える
④ 競技者はピースを台紙にはめ、カメラマンはピースと台紙の間隙がわかるように撮影し、審判と記録に伝える
⑤ カメラマンは台紙全体をゆっくり映して、台紙が台紙エリアの内側にあること、台紙に加工がされていないことを、審判と記録に伝える
⑥ 競技者は台紙に力を加えて、台紙が固定されていることを示し、カメラマンはそれを撮影して、

審判と記録に伝える

- ⑦ カメラマンと審判は、競技中のロボットの動きの確認と、それを漏れなく撮影するためのカメラ位置や動きなど（カメラワーク）を確認する
- ⑧ 以上が5分間で終わるようにお互いに協力する

(ウ) ロボットの説明

- ① 競技者はロボットの説明を1分程度で行う。アイデア、工夫したところ、どんな動きをするか、目標など。カメラマンはそれを撮影して配信する。
- ② 司会進行は時間をみながら進行

(エ) スタート時確認

- ① 競技者はピースをピース置き場の内側に置き、カメラマンはその様子を撮影して、審判と記録に伝える
- ② 競技者はロボットをスタートエリアの内側に置き、カメラマンはその様子を撮影して、審判と記録に伝える
- ③ 以上が1分間で終わるようにお互いに協力する

(オ) 競技

- ① カメラマンは、審判のスタートの合図を、競技者に伝える
- ② 競技者はロボットをスタートさせる
- ③ カメラマンはコースのまわりを移動しながら、ロボットの動作を漏れなく撮影して、審判と記録係に伝える
- ④ カメラマンは審判や審査員からの指示を競技者に伝える
- ⑤ 競技終了となったら、カメラマンは台紙エリアを撮影し、ピースのはまり具合を記録する
- ⑥ 一旦、カメラマンはビデオと音声を off にする
- ⑦ 競技の制限時間は4分間

(カ) 競技者コメント

- ① 競技成績がまとまったら、カメラマンはビデオと音声を on にする
- ② 競技者は、競技について1分程度でコメントする。思い通りにできたか、うまくできたところ、課題だったところなど。最後に視聴者への謝意を述べる
- ③ 司会進行は時間をみながら進行
- ④ 終わったら、カメラマンはビデオと音声を off にする

(キ) 次のチームへ

- ① 司会進行は謝意のべ、次の競技に準備を促す

6. 問い合わせ

(ア) 質問やコメントは以下の窓口まで

室蘭工業大学 教育研究1号館B棟3階 B-312

ロボット・トライアスロン運営委員会事務局 花島直彦

E-mail: info@robot-triathlon.org

以上